

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件

附 山東鐵道及鉱山並ヤップ島海底電線賠償問題

一一 バルセロナ國際交通會議ニ関スル件

一二 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件

一三 日英同盟協約更新ニ関スル交渉一件

一四 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件

附錄 日本外交文書大正十年第三冊（上下巻）日附索引

（以上 下巻）

事項一 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和条約批准關係一件

附 米国ノ対独平和条約批准拒否問題關係

一 三月三日

内田外務大臣ヨリ
原内閣總理大臣宛

対勃平和条約御批准方上奏案ニ關スル件

附屬書 右上奏案

和二機密送第二三号

対勃平和条約御批准ノ件

三、訳文（和文記入ノ附図ヲ添フ）
(附屬書)

対勃平和条約御批准方上奏ノ件

上奏案

大正八年十一月二十七日仏蘭西国「ヌイイー、シユール、セース」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員並勃爾牙利國全權委員ト共ニ署名調印シ羅馬尼亞國全權委員ノ同年十二月九日ノ宣言書ニ依リ加入シタル平和条約及附属議定書御批准相成候様致度右平和条約及附属議定書奉供款開候別紙御批准案相添此段謹テ奏ス

大正十年三月三日

外務大臣伯爵 内田康哉

（別紙）

御批准案

註 添附セラレタル左記文書ヲ省略ス

記

一、批准用謄本ノ副本

二、普通ノ正文英仏文

一 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和条約批准關係一件

天佑ヲ保有シ万世一系ノ帝祚ヲ践メル日本國皇帝（御名）
此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正八年十一月二十七日仏蘭西国「ヌイイー、シユー

一 同盟及聯合国ト勃洪各国トノ平和条約批准関係一件 二 三

ル、セーヌ」ニ於テ帝国全権委員ノ同盟及聯合国全権委員並勃爾牙利国全権委員ト共ニ署名調印シ羅馬尼亞国全権委員ノ同年十二月九日ノ宣言書ニ依リ加入シタル平和条約及附屬議定書ヲ閲覧点検シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十一年大正十年 月 日

ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鉛セシム

御名 国璽

外務大臣伯爵 内田康哉

内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)

四月二十八日

本邦側ニ於テハ日勃混合仲裁裁判所設置ノ意
ナキモ勃國側ニ於テ右ニ異存ナキヤ確メ方訓

令ノ件

第四〇七号

對勃爾牙利平和条約ハ其ノ第九編第六款ニ於テ対独、対墺各平和条約ノ第十編第六款ニ該當スル規定ヲ掲げ居ルニ付

帝国政府ニ於テ同条約批准ノ上ハ日勃両国間ニモ日独日墺ニ於ケルト同様一ノ混合仲裁裁判所ヲ設置スル条約上ノ義務アルモノト解セラルル処同裁判所設置ノ曉其ノ審判ニ付

セラルベキ案件ノ實際上殆ント之ナカルベキコトハ想像ニ

三 五月十三日

二上枢密院書記官長ヨリ
山縣枢密院議長宛

同盟及聯合国ト勃爾牙利国トノ平和条約批准

ニ閲シ審査ノ件

対勃平和条約御批准ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ対勃平和条約御批准ノ件ヲ審査スルニ本条約ハ同盟及聯合国ト勃爾牙利国トノ間ニ世界戦争終局ノ

平和条件トシテ約定シタル所ニ係リ同盟及聯合ノ十六国、英領五殖民地並勃爾牙利国ノ全権委員商議ノ結果一昨年十一月二十七日仏蘭西国「ヌイー、シユール、セーヌ」ニ於テ羅馬尼亞国ヲ除クノ外全当事国ノ全権委員ノ署名ヲ了シタルモノナリ帝國ハ從來勃爾牙利国ニ対シテ何等ノ外交關係ヲ有セザリシモ千九百十五年十月以降同國ガ帝國ノ敵國タル独壇両国ニ荷担シテ之ト協同作戦ニ從事シタルニ因リ帝國ニ於テモ事實上勃國ヲ敵国トシテ取扱ハザルベカラザルニ至リシガ故ニ帝國ハ聯合与國ト歩武ヲ一ニシテ同國ニ対スル講和交渉ノ衝ニ当リ遂ニ帝國委員ヲシテ列国委員ト共ニ本条約ニ調印セシムルノ措置ヲ執リタルナリ

本条約ハ前文及末文ノ外編ヲ別ツコト十三、条ヲ立ツルコト二百九十六、添フルニ附屬書八、附屬表五及附屬地図一ヲ以テシ別ニ附屬議定書アリ議定書ハ本条約中或ル条項ノ履行条件ヲ明確ナラシムル為協定セラレタル所ニ係リ本条約ト一体ヲ成シ之ト同等ノ拘束力ヲ有スルモノニシテ本条約ト同日同所ニ於テ本条約ノ全署名者之ニ署名シタリ以上本条約及附屬議定書ノ要旨ハ別冊外務省ノ作成ニ係ル「對勃平和条約解説概要」ニ開示スル所ノ如シ

本條約中「國際聯盟規約」及「勞働」ノ二編ハ對独及對墺平和条約ノ該當部分ト全ク其ノ規定ヲ同シクス其ノ他本條約ハ對独條約ニ比シ「獨逸国外ニ於ケル独逸國ノ權利及利益」及「保障」ノ二編ヲ、對墺條約ニ比シ「歐羅巴以外ニ於ケル墺地利國ノ利益」ノ一編ヲ闕如スルノ外其ノ大体ノ結構及各般ノ条項ニ於テ右両條約ノ範ニ則リタルモノ多キヲ占ムルモ又勃國特殊ノ事情ニ基キ特異ノ規定ヲ設ケタルモノナキニアラズ今其ノ特色ノ一端ヲ摘録スレバ(本條約ノ当事國タル同盟及聯合国ハ之ヲ對独條約ニ於ケルモノニ比シ十一國ヲ、對墺條約ニ於ケルモノニ比シ一國ヲ減ズ)國境ノ変更ニ付テハ勃爾牙利国ハ自余ノ敵国ニ比シ領土ヲ削減セラレタルコト最モ僅少ナリ是レ同國ハ独壇等ト異リ民族錯綜雜居ノ關係少キニ由ルモノニシテ之ヲ本条約ニ就テ見ルニ東方及北方ハ何等ノ変更ナク西方領土ノ一部ヲ「セルブ、クロアート、スロヴェーナ」国ニ割讓シ南方ノ稍広汎ナル部分ヲ一応主タル同盟及聯合国ノ為ニ拠棄ス而シテ當局ノ説明ニ依レバ主タル同盟及聯合国ハ本條約及他ノ條約ニ依リ此ノ地方ヲ希臘國ニ帰属セシムヘシト言フ(勃爾牙利陸軍ノ常備兵力ヲ將校以下總員二万人ニ削減ス是レ独

難カラザルガ故ニ同条約第百八十八条ノ文言通り別ニ一箇ノ國際裁判所ヲ設置スルハ日勃両国ノ為徒ニ無用ノ手数ト費用トヲ重ヌルニ過ギザルコト思考セラル就テハ本邦側ニ於テハ条約実施後ト雖モ審判員ノ選任ヲ初トシ同款及附屬書ニ定ムル手続ハ一切之ヲ為サザルノ心算ナル處勃爾牙利國側ニ於テハ右ニ対シ何等異存ナキヤ否ヤ貴地同國公使ニ照会ノ上本国政府ヨリノ正式ノ回答ヲ取付クル様致度右ハ目下枢密院ニ御諮詢中ノ対勃平和条約御批准ノ件ニ関シ同条約ノ公布ト同時ニ公布スベキ内國法令ノ問題ニ牽連スルガ故ニ貴地ニ於ケル閣下御交渉ノ結果成ルベク急速ニ承知シタク尚本件ニ関シ別ニ御意見ノ次第アラバ早速御上申アリタシ

一 同盟及聯合國ト勃洪各国トノ平和条約批准關係一件 三

四

逸ニ対シ十万人、 塙地利ニ対シ三万人ニ削減シタルガ如ク

其ノ陸軍ヲ国内ノ秩序維持及國境ノ警備ニ要スル最少限度ニ縮小スルノ趣旨ナリ(敵国ノ負担スベキ賠償額ニ付独逸及塙地利ニ対シテハ条約ニ具体的計数ヲ示サズ之ヲ賠償委員会ノ審査決定ニ俟ツコトセルモ勃爾牙利ニ対シテハ

本条約ニ於テ之ヲ二十二億五千万「法」金貨ト明記シ又本条約ニ於テハ賠償問題ニ付賠償委員会ノ外ニ同盟国國際委員会ナルモノヲ設置スヘキ旨ヲ規定スルコト等即チ是レナリ別冊外務省ノ作成ニ係ル「諸平和条約對當条項表」ハ彼此条項ノ対照点検ニ便ナラシムルモノナリ

羅馬尼亞国ハ始メ本条約ニ署名スルコトヲ肯諾セザリシガ一昨年十二月九日ニ至リ巴里ニ於テ单独ノ宣言書ヲ作成シ對塙平和条約及之ニ関連セル諸取極並本条約ニ加盟スル旨ヲ声明シタリ此ノ如キハ条約ニ加盟スルノ形式トシテ明ニ異例ニ屬スル所ナリト雖若シ關係列国ガ之ヲ承認スルニ於テハ羅国ハ頼リテ以テ締約國ノ列ヲ脱セザルコトヲ得ルモノト解スベシ而シテ帝国ニ在リテハ曩ニ對塙平和条約ヲ御批准アラセラルニ当リ右羅国ノ加入宣言書モ亦併セテ本院ノ詢議ニ附セラレ列国ノ例ニ倣ヒテ之ヲ承認スルノ処置

ニ出デタルモノナリ

本条約ハ既ニ昨年八月九日巴里ニ於テ主タル同盟及聯合國中英吉利、仏蘭西、伊太利ノ三国、白耳義國、暹羅國並勃爾牙利國ノ間ニ批准書寄託ノ第一回調書作成セラレ同日以降実施ノ効力ヲ生ジタルモノナリ

曩ニ本院ニ於テ対独、対塙両和平條約ヲ審議セラルニ当リ該条約ノ条項ニ付其ノ意見ノ存スル所ヲ表示シテ當局ノ注意ヲ喚起セラレタリ右本院意見ノ諸点中対勃平和条約ニ於テ同様ノ条項ヲ掲ケタル事項ニ付テハ今日復タ本院ニ於テ同様ノ見解ヲ持セラルベキモノト認ム殊ニ國際聯盟ハ其ノ存立ノ趣旨ニ照シ唯一アルノミニシテニアルベカラザルコト固ヨリ疑フ容レズ然ルニ前記兩条約ニ各々之ニ關スル同一ノ規定ヲ設ケタルノミナラズ更ニ本条約ニモ亦全然同文ノ条項ヲ掲ゲ且彼此ノ間何等連絡ノ条款ヲ存セザルコト拘リテ解スレバ各条約ヲ以テ數多ノ國際聯盟ヲ組織スル義タルノ感ナキニアラズ是レ前ニ本院ニ於テ対塙平和条約御批准ノ議ヲ可決セラルニ方リ特ニ指摘セラレタル所ニシ

按ズルニ本条約ハ曩ニ本院ノ御諮詢ヲ経テ御批准アラセラレタル対独、対塙両和平條約ノ主義ニ準拠シ適宜特殊ノ規定ヲ插入シタルモノニシテ其ノ条項ノ大部分ハ既ニ前記兩条約ニ於テ認容セラレタル所ニ係ル而シテ本条約ニ於ケル帝国利害關係ノ重要ナラザルコトハ對塙條約ニ於ケルヨリモ更ニ一步ヲ進メタルモノアリ即チ帝国ニ於テモ本条約(附屬議定書ヲ含ム)ヲ批准セラレ以テ列国協調ノ旨意ヲ保持スルコト蓋シ已ムヲ得ザルノ挙措ナリトス仍テ本案ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

大正十年五月十三日

枢密院書記官長 一上兵治

枢密院議長 公爵山縣有朋殿

(欄外註記)

「五月十八日枢密院議ニ上程政府側原首相内田外務大臣松村法制局參事官田中通商及山川條約兩局長菊地第二部長等出席清浦副議長主宰ノ下ニ上書記官長ノ報告ニテ即決可決アリ」

四 五月十七日 在仏國石井大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

日勃混合仲裁裁判所設置見合セニ勃國側ニ於

一 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和條約批准關係一件 四

五

テ異議ナキ件

第七四〇号

(五月二十一日接受)

貴電第四〇七号ニ関シ

五月二日附當館公文ヲ以テ御來示ノ次第ヲ当地勃爾牙利公使館ニ通ジ本国政府ノ回答取付ケ方申入置キタル処勃國公使ハ五月十三日附書翰ヲ以テ同國政府ニ於テモ無用ノ形式ト費用ヲ避クル為「ヌイイー」條約第一百八十八条ノ手続ヲ執ラザルベキ旨ノ帝國政府提出案ニ異議ナキ趣回答シ越セリ往復文書郵送ス

五 五月二十四日 墳原外務次官ヨリ

鈴木司法次官宛

对勃平和条約第九編第六款ニ規定スル混合仲裁判所設置見合セニ関スル件

和二機密送第二五号

大正八年十一月二十七日仏國「ヌイイー、シユール、セー

ヌ」ニ於テ署名調印ノ對勃爾牙利平和條約ハ過般枢密院ニ御諮詢相成同院ニ於テ直ニ可決セラレ不日御批准ノ運ビニ可相成候處同條約ハ其ノ第九編第六款ニ於テ対独、対塙各平和條約ノ第十編第六款ニ該當スル規定ヲ掲ゲ混合仲裁判裁

五

一 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和条約批准關係一件 六 七 八 九

判所設置ノコトヲ規定致居候得共右ノ設置ハ両國ノ為實際上徒ニ無用ノ手數ト費用トヲ重ヌルニ過ギザルコトト思考

セラレ候ニ付テハ曩ニ當省大臣ヨリ在仏石井大使宛別紙甲号写ノ通電訓致置候處同大使ヨリ今般別紙乙号写ノ通回電

有之候就テハ日勃間混合仲裁裁判所ハ将来實際上其ノ設置ノ必要アル場合ヲ見ルニ於テハ更ニ考慮スルコトアルベキモ此際別ニ之カ設置ノ手続ヲ履マザルコトニ致度意見ニ有之候条右御了知相成度別冊對勃條約英仏原文及訳文相添此段申進候也

註 別紙甲号写及同乙号写並別冊省略

六 五月二十四日 原内閣總理大臣ヨリ
外務大臣宛 内田外務大臣宛

对勃平和条約批准裁可ノ件

内閣外甲第一六号 大正十年五月二十四日

(五月二十四日接受)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

内閣總理大臣 原 敬(印)

通牒

对勃平和条約御批准ノ件上奏ノ通裁可ヲ経タリ

謹テ今回御諮詢ノ対洪平和条約御批准ノ件ヲ審査スルニ本條約ハ舊墺地利洪牙利國ノ解体ニ因リ墺地利國ト洪牙利國トカ分離セル現時ノ事態ニ照シ専ラ洪牙利國ト同盟及聯合國トノ間ニ世界戦争終局ノ平和条件トシテ約定シタル所ニ係リ同盟及聯合ノ十七国及英領五殖民地並洪牙利國ノ全權委員商議ノ結果昨年六月四日仏國「トリアノン」ニ於テ全当事國ノ全權委員ノ署名調印ヲ了シタルモノナリ

本條約ハ前文及末文ノ外編ヲ別ツコト十四、条ヲ立ツルコト三百六十四、添フルニ附屬書十五、附屬表五及附屬地図一ヲ以テシ別ニ附屬ノ議定書及宣言書アリ

本條約ハ大体ニ於テ範ヲ独逸、墺地利及勃爾牙利ノ各國ニ對スル平和条約ニ採リ殊ニ対墺條約ニ比シテ其ノ形式及實質共ニ頗ル相似タル所アルモ又固ヨリ洪國特殊ノ事情ニ因リ特異ノ規定ヲ設ケタルモノナキニアラス今本條約ヲ以テ右諸平和条約ニ対照シタル異同ノ一斑ヲ開示スレハ(本條約ノ当事國タル同盟及聯合ノ十七国ハ全ク対墺條約ニ於ケルト同一ニシテ対独條約ニ比シ十国ヲ減シ対勃條約ニ比シ一国ヲ増ス)本條約ノ編別ハ対墺條約ニ於ケルト全ク同趣ニシテ対独條約ニ比シ「保障」ノ一編ヲ減シ対勃條約ニ比

六 六 七月二十五日 内田外務大臣ヨリ 在仏国石井大使宛(電報)
日本政府ノ対勃平和条約批准済ノ旨仏国政府
二通報方指示ノ件

第四八七号

大正十年五月二十五日対勃平和条約及附屬議定書ノ御批准ヲ經タリ就テハ該條約ノ末文第三項ノ規定ニ基キ書面ヲ以テ右帝國批准済ノ旨ヲ仏國政府ニ通報方適當ニ処理セラレタル上其通報ノ日附電報相成度シ

八 五月二十七日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
貴電第四八七号ニ閲シ

九 七月九日 二上枢密院書記官長ヨリ
山縣枢密院議長宛
对勃平和条約批准ニ付仏国政府ニ通告済

第八〇六号 五月二十六日附ヲ以テ仏国政府ニ通告済

五 五月二十七日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
貴電第四八七号ニ閲シ

九 七月九日 二上枢密院書記官長ヨリ
山縣枢密院議長宛
对勃平和条約批准ニ付仏国政府ニ通告済

对洪平和条約批准二閑シ審査ノ件

対洪平和条約御批准ノ件審査報告

シ「歐羅巴以外ニ於ケル洪牙利國ノ利益」ノ一編ヲ加フルノ外其ノ結構相異ナルコトナシ(「國際聯盟規約」及「勞働」ノ二編ハ前記三条約ノ當該部分ト全ク其ノ規定ヲ同シクス(其ノ他対墺條約ニ比シ「歐羅巴以外ニ於ケル洪牙利國ノ利益」、「俘虜及墳墓」、「制裁」、「航空」及「雜則」)ノ諸編ハ彼此ノ規定全然同趣ニ出テ自余ノ諸編モ亦間々条項ノ增減アルニ止マリ其ノ内容ニ於テ多ク異ナル所ナシ(「洪牙利國ノ境界」ノ一編ニハ本條約固有ノ条款ナカルヘカラス洪牙利國ノ版図ハ主トシテ民族自決ノ思想ニ基キテ著シク縮小セラレタルカ茲ニ其ノ概要ヲ摘要スレハ洪牙利國ハ東方ニ於テ「トランシルヴァニア」其ノ他羅馬尼亞人ノ多数居住スル地方ヲ羅馬尼亞國ノ為ニ拠棄シ南方ニ於テ「スラヴォニア」、「クロアシア」其ノ他南「スラヴェーヌ」人ノ多数居住スル地方ヲ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」人國ノ為ニ拠棄シ且「フィウメ」及其ノ隣接地方ヲ同盟及聯合ニ對シテ拠棄シ西方ニ於テ「エーデンブルグ」ノ一半ヲ墺地利國ニ譲渡シ北方ニ於テ「チエツコ、スロヴアック」人ノ多数居住スル地方ヲ「チエツコ、スロヴアック」國ニ譲渡スルモノトス(陸軍ノ常備兵力タル將校以下總兵員數

一 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和条約批准關係一件 九

八

ノ最多限ハ独逸ノ十万人、奥地利ノ三万人、勃爾牙利ノ二万人ト異ナリ洪牙利ニ於テハ三万五千人トス其他水軍ノ兵力ヲ制限スル実數ニ於テ彼此多少ノ差異ナキニアラス(洪)

牙利國ノ負担スヘキ賠償額ハ勃爾牙利國ニ対シテ其ノ實額ヲ條約ニ明記シタルト異ナリ独逸國及奥地利國ニ対スルト同シク之ヲ賠償委員会ノ審査決定ニ俟ツヘキモノトス

本條約附属ノ議定書ハ本條約中或ル条項ノ履行条件ヲ明確ナラシムル為協定セラレタルモノ又宣言書ハ洪牙利國ヲシテ同國海軍ノ擊沈シ又ハ損害ヲ加ヘタル船舶ニ関スル一切ノ参考資料ヲ同盟及聯合國ニ提供スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ定メタルモノニシテ本條約ト同日同所ニ於テ作成セラレタル所ニ係リ其ノ内容ハ対奥地利ノケルモノト全然同趣ニ出ツ但本條約附属ノ議定書及宣言書ハ他ノ諸條約ニ於ケルモノト異ナリ之ニ列国全權委員ノ署名ヲ附スルコトナシ是レ明ニ異例ニ属シ或ハ該議定書及宣言書ノ効力ヲ疑フノ事由タルナキヲ保セサルカ故ニ特ニ其ノ所以ヲ外務当局ニ質シタルニ當局ノ弁明ニ依レハ右議定書及宣言書作成ノ際誤テ各全權委員ノ署名ヲ漏シタルモノニシテ列国政府ハ議定書及宣言書ヲ本條約ノ一部ト看做シ本條約ニ於ケル

署名ヲ以テ議定書及宣言書ヲ蓋フモノト為スノ解釈ヲ執リツツアリ帝国政府ニ於テモ亦同一ノ見解ニ出テムトスルモノナリト言フ

以上本條約並附属ノ議定書及宣言書ノ要旨ニ付テハ別冊外務省ノ作成ニ係ル「對洪平和条約解説概要」ニ剖示スル所アリ就テ参照セラレムコトヲ請フ

本條約ハ洪牙利國ニ於テハ既ニ之カ批准ヲ了シ英、伊ノ両國モ亦批准成リ仏國ニ於テハ將ニ其ノ手続ヲ終ラムトスルノ域ニ在リ從テ近ク批准書寄託ノ第一回調書ヲ作成スルノ運ニ到ル見込ナリト聞ク

曩ニ本院ニ於テ対独、対奥地利及對勃ノ諸平和条約ヲ審議セラルニ當リ該條約ノ条項ニ付其ノ意見ノ存スル所ヲ表示シテ當局ノ注意ヲ喚起セラレタリ右本院意見ノ諸点中対洪和平條約ニ於テ同様ノ条項ヲ掲ケタル事項ニ付テハ今日復タ本院ニ於テ同様ノ見解ヲ持セラルヘキモノト認ム殊ニ國際聯盟ハ其ノ存立ノ趣意ニ考へ唯一アルヘキモノナルニ拘ラス數個ノ條約ニ各々之ニ関スル同一ノ規定ヲ設ケテ其ノ間毫モ連絡ノ条款ヲ存スルコトナク専ラ條文ノ形式ニ泥ミテ解スレハ數多ノ國際聯盟ノ構成セラレタルニ非サルナキカ

ノ感ナシトセス是レ前ニ本院ニ於テ対奥地利及對勃ノ兩平和條約御批准ノ議ヲ可決セラルニ方リ特ニ指摘セラレタル所ナリトス

按スルニ本條約ハ曩ニ本院ノ御諮詢ヲ經テ御批准アラセラレタル諸平和条約ノ主義ニ循由シ適宜規定ヲ増減シタルモノニシテ其ノ条項ノ大部分ハ既ニ他ノ平和条約ニ於テ是認セラレタル所ニ係ル而シテ本條約ニ於ケル帝國利害關係ノ重要ナラサルコトハ対奥地利及對勃ノ兩平和條約ニ於ケルト多ク折フ所ナン唯

本條約附属ノ議定書及宣言書ニ列国全權委員ノ署名ヲ脱シタルハ固ヨリ失態タルコトヲ免レスト雖モ既ニ列国中之ヲ承認セルモノアルニ鑑ミ當局ノ弁明ニ基キテ其ノ効力ニ欠クル所ナキモノト認ムルノ外ナシ即チ帝國ニ於テモ列国協調ノ旨意ニ從ヒテ本條約及附属議定書ヲ批准セラレ同宣言書ヲ承認セラルルコト蓋シムラ得サルノ処置ナリトス仍テ本案ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

大正十年七月九日

枢密院書記官長 二上兵治

枢密院議長

公爵山県有朋殿

一 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和条約批准關係一件

一〇

一一

一一

七月十九日 原内閣總理大臣ヨリ
内田外務大臣宛 在仏國石井大使ヨリ

通牒

對洪平和条約批准ノ件上奏ノ通り裁可ヲ經タリ

外務大臣伯爵 内田康哉殿

内閣總理大臣 原 敬(印)

七月二十一日接受

大正十年七月十九日

外務大臣伯爵 内田康哉殿

内閣總理大臣 原 敬(印)

七月二十一日接受

仏國政府ニ寄託ノ件

第一六三三号 (十一月十八日接受)

「トリアノン」及「ヌイイー」ニ於テ調印セラレタル聯合國ト洪牙利及聯合國ト「ブルガリア」間ノ平和条約ニ対スル帝国ノ御批准書仏國政府ニ寄託シ十月三十一日附寄託調書ニ本使調印セリ

二 同盟及聯合國ト勃洪各國トノ平和条約批准關係一件 一二

一三

居リ現在ノ聯盟ニハ到底加入セザルベシト本使ニ語レリ且ツ三月四日以前ニ米國政府ニ向ッテ何等交渉ヲ試ムルハ無意義ナリトハ英仏代表共同ノ意見ト見エタリ

在英米大使ヘ転電セリ

三 米國諸新聞ノ國際聯盟及条約問題ニ関スル觀測報告ノ件

一三

一三 四月十一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國諸新聞ノ國際聯盟及条約問題ニ関スル觀測報告ノ件

第一九五号

(四月十二日接受)

「ハーディング」政府就任以来國際聯盟條約問題ニ関シテハ殊更ニ論議ヲ遊ケテ新政府ノ政策ヲ注視セル當國言論界ハ臨時議会開会ノ切迫ト「ヴィヴィアニア」ノ來訪トニ刺戟セラレテ昨今種々ノ觀測ヲ行フニ至レリ「ヴィヴィアニア」ガ「ロッヂ」「ノックス」並ニ數人ノ條約極端反対派ト數次會見シタル結果「ローザンヌ」ノ「マタン」宛電報トナリ(在仏大使発閣下宛電報第五一一号参照)當國ニ於テモ紐育 World Herald 其ノ他ノ諸新聞ハ右「ローザンヌ」ノ電報ヲ以テ條約極端反対派ノミナラズ行政部ト密接ナル関係ヲ有スル上院議員等ノ意見ヲ代表スルモノナリト認メ

八、独逸ガ米國ノ要求ヲ容レ米國ニ最惠国待遇ヲ与ヘ且戰時中米國ノ行ヒタル一切ノ独逸財産ノ捕獲ヲ確認スル迄米國ハ現ニ其ノ占有スル一切ノ独逸財産ヲ留置スルコト以上ハ主トシテ國際聯盟ニ反対スル上院議員ノ意見ノ反映セルモノナルベク大統領及國務長官ガ果シテ之ニ贊同セルヤ否ヤ未ダ即断スルコトヲ得ズ今ヤ國務長官ノ威望漸ク重キヲ加フル状有ルニ際シ同官ガ本問題ニ関シ沈默自重ノ態度ヲ持スルハ注目スヘキ点ナリ既ニ本月七日及八日ノ「パブリック・レジジャリー」ノ如ク(Wile ガ或ル閣員及上院議員ヨリ得タル情報ノ由ナリ)「ハーディング」及「ヒューズ」ハ条約極端反対論者ニ雷同スルガ如キコト無ク議会ノ決議ヲ以テ平和恢復ヲ宣言セムトスル所謂「ノックス」案ニ付テハ其ノ通過ヲ遲延セシメムコトヲ希望シ仮令同案ヲ採用スル場合ニ於テモ其ノ字句ヲ修正シテ単ニ名義上ノ平和宣言ヲ為スニ止メ置キ別ニ列国政府ト經濟問題軍備問題等ヲ協議スル目的ヲ以テ華府ニ第二ノ平和會議トモ称スペキ國際會議(脱)「ハーディング」ノ所謂新國際聯合ノ素地ヲ作り聯合國ト協調シテ万般ノ問題ヲ解決セムトスル腹案ヲ有スト伝フル者モアリ